

令和6年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第4回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2024年8月10日（土）17:30～20:30

参加者：2名 ※学部生3名の参加申込があったが、キャンセルの連絡があった。

（外部関係者：2名、教職員：杉山、中澤）

■実施場所：春日山原始林

■第4回 奈良公園の夕暮れ～夜（東大寺二月堂周辺散策）

2024年8月10日（土）17:30～20:00

概要：奈良の夏の風物詩として行われる「燈花会」。夏の夜にろうそくによるイルミネーションが奈良公園を彩ります。期間中は毎日300名以上のサポーターによってろうそくが設置・撤去されています。この燈花会をおとずれると共に、東大寺周辺の夜の奈良公園等も散策し、奈良公園の価値と魅力について学ぶ。

17:30 大学正門前集合

前日1名、当日2名の不参加の連絡があり、外部関係者2名と実施となった。

17:45 浅茅ヶ原園地－春日大社参道－春日野国際フォーラム－春日野園地－手向山八幡－二月堂

18:20 二月堂にて夕暮れを待つ

18:50 日没後移動－二月堂裏参道－大湯屋－鐘楼－東大寺南大門－春日野園地

19:20 燈花会鑑賞（春日野園地－春日野国際フォーラム－浮雲園地－浅茅ヶ原園地）

20:00 解散

■概要報告

奈良公園の夏の風物詩となった「なら燈花会」と東大寺二月堂周辺の夕暮れなどを体験するフィールドワーク。直前に学生から欠席の連絡があり、学校外関係者2名と、杉山・中澤の4名での実施となった。

浅茅ヶ原園地に着くと白い蠟燭ケースが整然と並ぶほか、竹で作られたオブジェが設置されていた他、「ろうそく募金箱」が設置されていた。燈花会は、NPO法人なら燈花会の会が実施するお祭りであり、ボランティアや寄付・協賛によってこれまで継続されてきた。（今年度で26回目）春日大社参道では、8/14-15に行われる「中元万燈籠」に合わせて、縁起に関わる箱型の提灯が展示されていた。

春日野国際フォーラム前は出店が並び、浮雲園地にも、蠟燭ケースが並んでいた。過去には、春日野園地にも同様に並べられていたことがあったが、今年は設置はなく、実施エリアの変遷も伺えた。

春日野園地から手向山八幡へと抜ける道は人もまばらであったが、二月堂へ登ると夕焼けを待つ人々が多くいた。海外からの旅行者が多く、観光客の増加を肌で感じる機会となった。

その後は、二月堂の裏参道か鐘楼、大仏殿へと移動し、浮雲園地で行われている燈花会を鑑賞。春日

野国際フォーラムでは、「一客一燈」と言われる、参加者自らが蠟燭を灯すことができる会場となっていたほか、石材の業者と連携したライトアップなどもあった。暗くなるほど人が増えてきて、浮雲園地から浅茅ヶ原では数多くの人が燈花会を楽しんでいた。一部ではコンサートが行われたり、竹細工で作られたオブジェの明かりも美しく、多くの人が写真を撮ったりして楽しんでいる様子であった。通常は18時過ぎには人もまばらとなり、静かな奈良公園であるが、奈良の夜の魅力を発信しようとはじまった燈花会は、四半世紀を過ぎて、市民から始まった奈良の夏の風物詩となっている。祭りの規模が若干縮小気味で今後の継続が大きな課題とも考えられるものの、こうした取り組みについて学生にも触れてもらう機会を今後も続けたい。

■写真



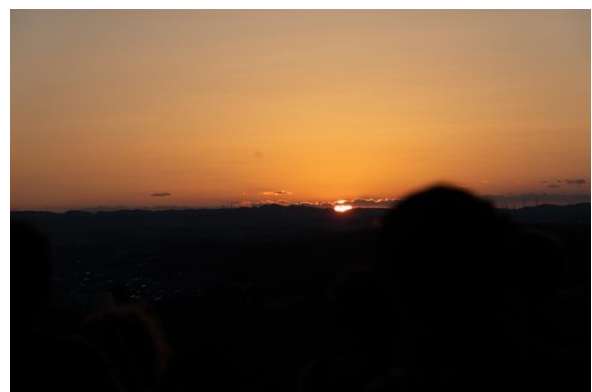
ろうそく募金箱



春日大社参道の箱型提灯



二月堂に集まる多くの人々



二月堂からの夕焼け



春日野国際フォーラムの一客一燈



浅茅ヶ原園地の竹のオブジェ